# MITSUBISHI リプレースマルチ 別売部品

## 三菱電機 ビル用 エアコン

PAC-KP94PCK

## PAGキット取扱説明書

●取扱の前には、安全を確保するため必ずこの「取扱説明書」をよくお読みください。
安全のために必ず守っていただく項目を ⚠ 警告 ⚠ 注意の形で記載しました。

WT04010X02

### 安全のために必ず守ること

●取扱工事はこの「安全のために必ず守ること」をよくお読みの上、確実に守ってください。
●ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●誤った扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して表示しています。

| | |
|---|---|
| ⚠ 警告 | 誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの。 |
| ⚠ 注意 | 誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの。 |

### ⚠ 警告

**取扱いは、専門業者（認定店、三菱電機ビルテクノサービス）に依頼する。**
●ご自分で取扱工事をされ不備があると、測定誤差等の原因になります。

**改造はしない。**
●改造し不備があると、測定誤差等の原因になります。

**取扱工事は取扱説明書に従って確実に行う。**
●取扱いに不備があると、測定誤差等の原因になります。

### ⚠ 注意

**部品の運搬には十分注意する。**
●取扱いに不備があると部品の破損する原因になります。

**運転を開始する12時間以上前に電源を入れる。**
●通電時間が短い場合故障の原因になります。シーズン中は電源を切らないでください。

### 1．必要部品

**この説明書のほかに、下記部品がそろっていることをご確認ください。**

| No. | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
|---|---|---|---|---|---|
| 部品名 | 容器 | 油ボトル小 | 油ボトル大 | スポイト | 電極 |
| 形状 | | | 油60cc入り | | |
| 個数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |

**別途ご用意ください。**

| No. | ⑥ | ⑦ |
|---|---|---|
| 部品名 | テスタ | ストップウォッチ |
| 必要条件 | デジタル表示のもので、20MΩ以上の抵抗を測定でき、電圧3V以上のものをご用意ください。（参考機種：Mother Tool 製 MT-4070もしくはMT-3210） | 市販のデジタルストップウォッチ |
| 必要数 | 1 | 1 |

**※1.安全のために軍手等保護具を着用の上、実施してください。**
**※2.一度使用した部品を再利用しないでください。**
**※3.更新前のシステムで使用されていた冷凍機油の種類をご確認ください。**
**本キットは、PAG（ポリアルキレングリコール）の残油量チェックにご使用ください。**

## 2．測定方法＜（　）内の番号は部品の番号を示しています。＞

2－1はじめに

本キットに付属の電極（⑤）からワニ口クリップ付配線、シリカゲル、抵抗を取り出し、テスタ（⑥）とA図の様に接続した後、抵抗値を測定して抵抗値が0.95MΩ～1.05MΩの範囲であることを確認してください。（抵抗は1MΩのものが入っています。）範囲外の場合は、テスタを校正するか、もしくは、別のテスタをご準備ください。

2－2測定方法

① 室外ユニットを運転してください。

② 油回収操作弁（B図の位置）から油を回収しますので、オイルパン等の容器（別途ご用意ください。）を弁の下に置きます。

③ 油回収操作弁を1～2秒開け、油を採取してください。
（この油は廃棄してください。）

④ ③の油回収から20分後、PAGキット付属の容器（①）を油回収操作弁に取付け、1～2秒バルブを開け、油を採取してください。

**⚠注意** ●油飛散防止の為、油回収操作弁の操作はゆっくり行い、適宜養生ください。

⑤ 容器（①）内を真空引きします。容器を横にして真空引きすると、油も一緒に持ち出される為、立てた状態で行ってください。（C図）
真空度が650Paに到達後15秒以上真空引きを実施し、その後真空ポンプを止めて15秒間放置し、その後真空度が上昇しないことを確認してください。

⑥ 容器（①）を温かい部屋等で30℃以上（体温程度）になるまで、放置します。（容器（①）に水滴が付着している場合は、拭き取ってください。）

⑦ 容器（①）の油を、油ボトル小（②）の2／3程度まで入れます。（D図）

⑧ 油ボトル小（②）に入れた油をさらにスポイト（④）で油ボトル大（③）の中の油の量が60と70の目盛りの中央になるまで入れます。（E図）
（油ボトル大（③）には、もともと60ccの油が入っています。）

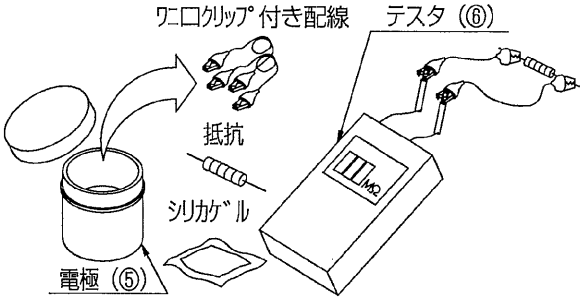
⑨ 油ボトル大（③）の蓋をしっかり締め、1分程度激しく振り、泡が消えるまで（10分程度）放置します。

⑩ 油ボトル大（③）の油を、10の目盛り以下になるまで電極（⑤）の中に入れ、15分放置します。（F図）
但し、放置時間の誤差は±1分としてください。

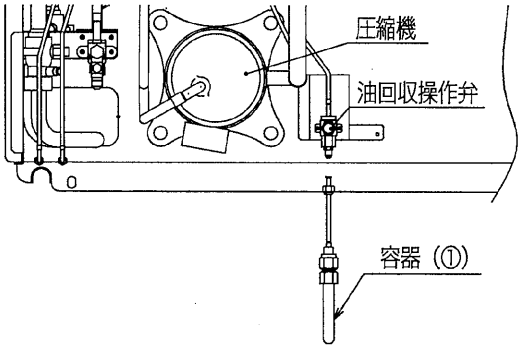
⑪ 電極（⑤）の端子部分と、テスタ（⑥）を接続し、テスタのレンジを電気抵抗の測定レンジにして電源をオンにしたまま30分放置します。
但し、放置時間の誤差は±1分としてください。又、テスタによっては、自動的に電源オフするものがありますが、電源オフさせないようにしてください。（G図）

⑫ 抵抗値が15MΩ以下であれば洗浄が不十分ですので、再洗浄を行ってください。

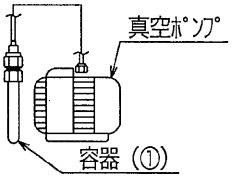
**⚠注意** ●抵抗測定は室温（15～30℃）で行ってください。又、雨等の水分が混入する可能性がある環境下では測定しないでください。



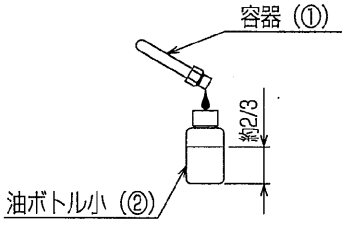
（A図）



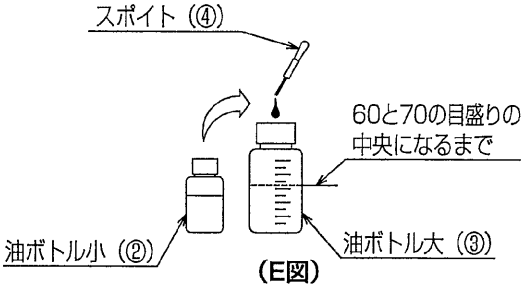
（B図）



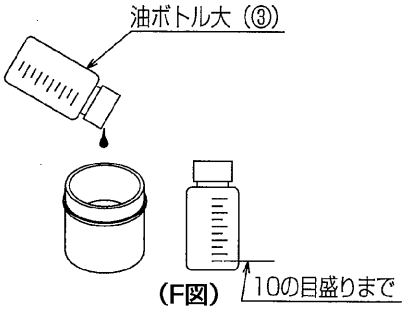
（C図）



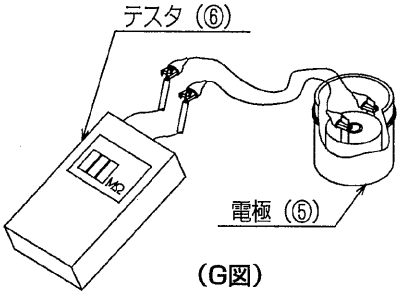
（D図）



（E図）



（F図）



（G図）

三菱電機株式会社

WT04010X02